

解決したい 課題

大人に響く交通安全

ー横断歩道がなく、危険な横断の多発箇所において、危険な横断を抑制したいー

R6実証内容

1. AIカメラ、スピーカー、ライト設置

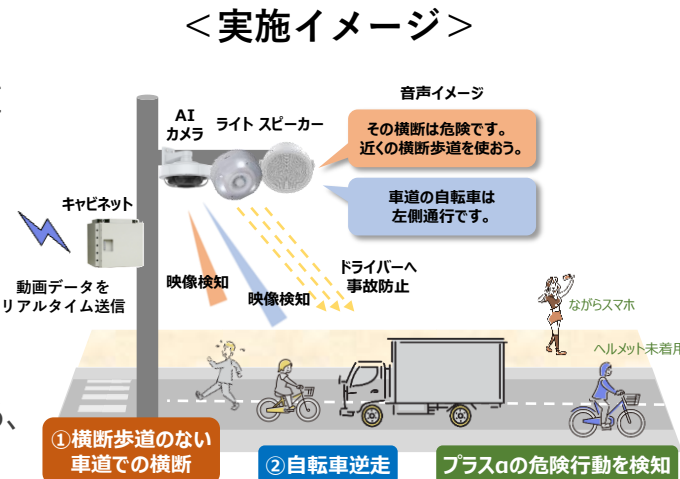
AIカメラで常時撮影し、危険な横断や自転車の逆走を検知した場合に、**音声でのアラート発出**による注意喚起と**光でのアラート発出**による事故防止を促す

2. 行動変容の効果検証

実施場所における実施期間中の歩行者等の横断検知数やアンケート結果を収集
注意喚起の有無による効果、注意喚起開始から、行動変容に至るまでの期間等を分析

<検知対象の行動>

①横断歩道のない車道での横断、②自転車逆走、③プラスαの危険行動検知



取組成果

1. AIカメラの検知精度

AIカメラを活用した危険行動の検知精度としては、**90%程度の精度**を確認

2. 該当エリアにおける横断数抑制

横断歩道がない該当エリア内について、**30%程度の横断数減少**効果を確認（一定の行動変容を確認）

3. 迂回行動の確認

AIカメラに映らないエリアに迂回し、横断歩道がない箇所では危険な歩行者横断が続いているケースを一定数確認

結果考察

本実証の効果（行動変容）については、一定程度確認することができた一方で、特に「①電柱等に対する機器設置ハードルの高さ（対処案：市保有の街路灯、既存防犯カメラ等の活用）」や「②検知エリア外における注意喚起の困難さ（対処案：カメラ増設によるカバー範囲拡大）」等の課題が顕在化

実装に向けた課題

注意喚起のみで危険行動を劇的に減らすことは難しく、道路設計の見直しや、現地での直接的な声掛け、SNS等メディアによる市民発信などを組み合わせる必要があると想定